



カブトムシの幼虫はどうやって育てるの

幼虫をさがそう

春の終わりに夏のはじめに、よく太った幼虫をさい集しましょう。林や森の近くで、製材所の木の切りくずや、木のこなが、捨てられている所を見つけたら最高です。木くずの山の下を、ほりかえしてみましよう。幼虫が見つかるはず。見つけた場所の土(腐葉土)や木くずはえさですから、いっしょに持って帰ります。幼虫を飼うとき、土の深さが20センチメートル以上必要なので、飼う予定の容器の大きさにあわせて、多めに腐葉土を持って帰りましよう。

飼うときは、土をとりかえるのがコツ

20センチメートル以上、腐葉土をつめた容器に幼虫を入れ、土がかわかないように、きりふきで水をかけ、湿らせてやります。土の表面にふんの量がなくなったら、えさ(腐葉土)を取りかえます。さい集時に、取りかえるための分も考えて、腐葉土や木くずを持って帰るのがいちばんです。たくさんの幼虫をとってくると、とちゅうでえさがなくなり、殺す結果になります。くさりかけの木くず、クリの木などのくさった物、「腐葉土」、「たいひ」などがえさになります。幼虫を飼うことは、何度も失敗するものと思ってください。

買って来た場合

ペットショップでは、もうすぐさなぎになる、よく太った幼虫とえさを、容器とセットにした形で売っています。これを買ってくれば、てまがかかりません。さなぎになり、成虫が生まれるのを待つだけです。むやみに手でさわると、幼虫は病気になり、死ぬことがあります。さなぎになってから約15日で、成虫になります。(監修・中山 周平)

